



2018年3月期 通期決算短信 補足説明資料

株式会社オプティム

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略等はいずれも作成時点で入手可能な情報を基にした予測であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績および戦略は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料に記載されているマーケット情報などに関する情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

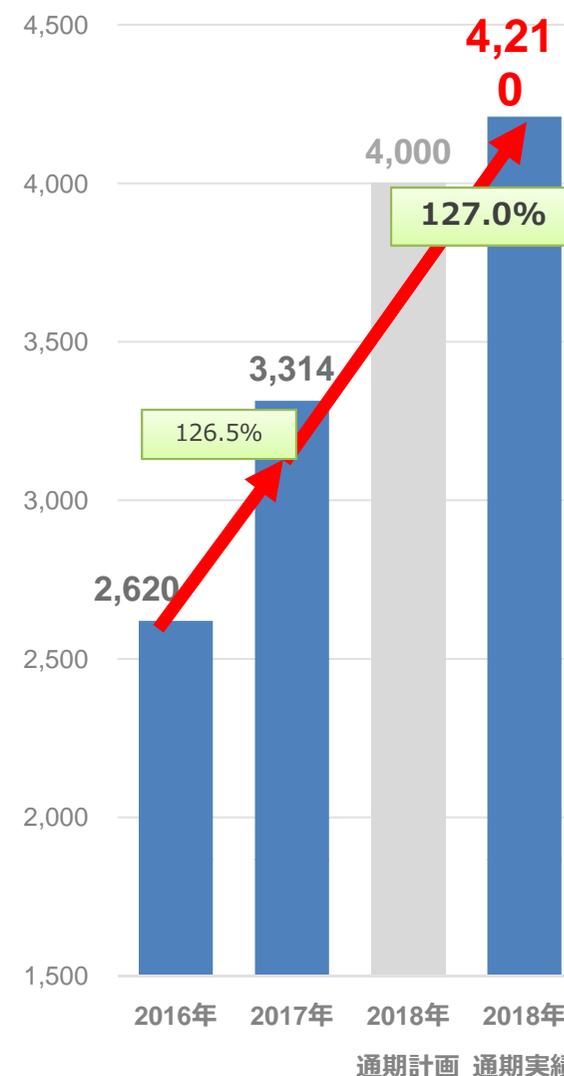
創業来18期連続となる過去最高売上高を達成 2018年3月期の当初売上予測 40億から上振れ、42.10億で着地

売上の9割近くを占めるストック型のライセンス売上については、IoTプラットフォームサービス（前年比130%超）及びその他サービス（前年比160%超）を筆頭にライセンス数を順調に積み上げることが出来たため前年比149.6%の成長となっております。

その結果、全体売上においても前年比127.0%での着地となっております。

前年比
(単位：百万円)

売上実績の推移



第4次産業革命の中心的企業になるべく
AI・IoT・Robot分野への
積極的投資継続中
～ 利益は通期計画範囲通り～

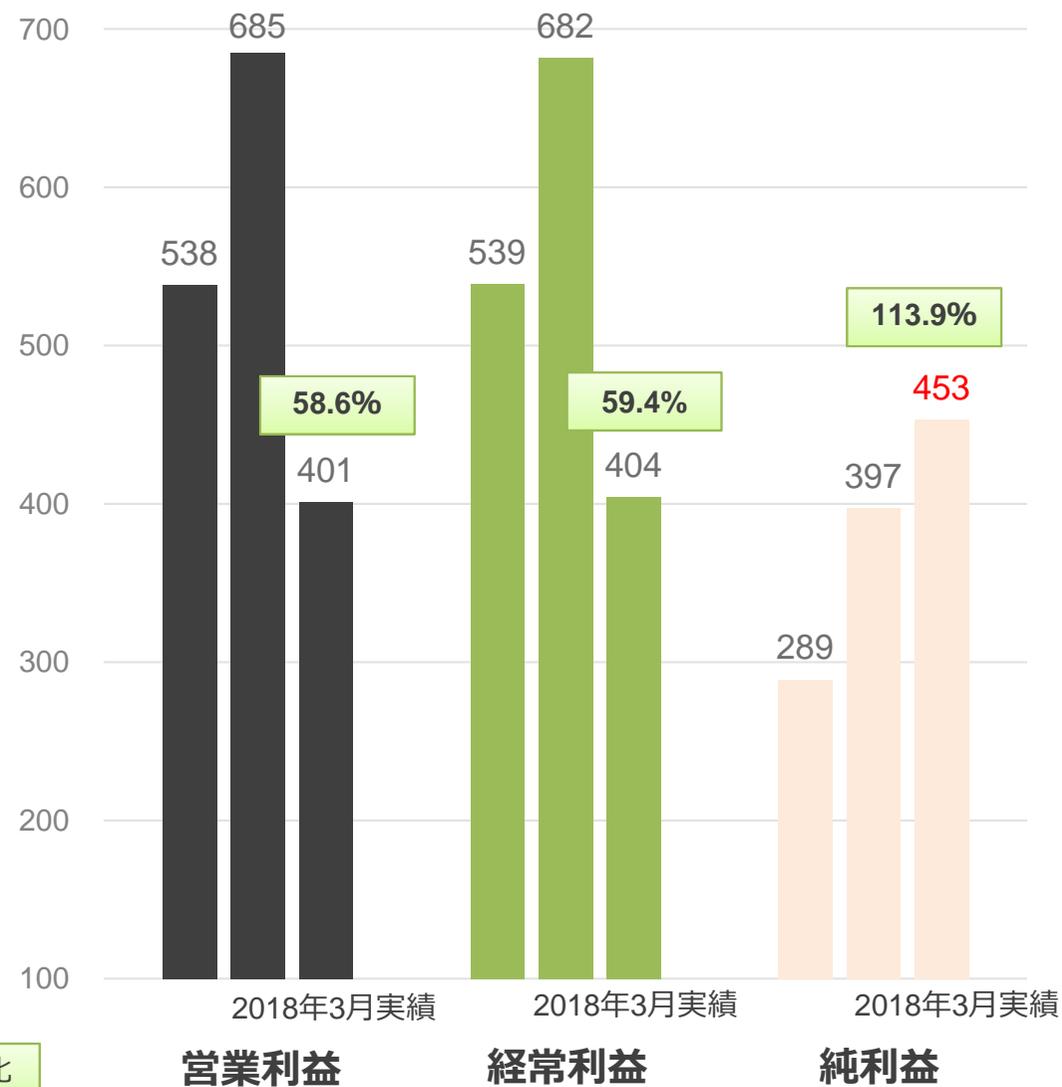
【営業利益・経常利益】

期初からの計画通り、当期においては戦略的に例年以上に研究開発投資に注力してまいりました。実績としては、前年比で約130%・金額ベースで4億円超の投資実績となっております。その結果、営業利益、経常利益共に、4億円となっております。

【純利益】

期中に吸収合併した株式会社テレパシー・グローバルの影響もあり、純利益は、4.5億円となっております。

3か年利益実績推移



(単位：百万円)



第4次産業革命の中心的企业になる



2018年3月期 経営方針：

「第4次産業革命」において中心的な役割を果たす企業となるため、最大、経常利益がマイナスにならない範囲において、研究開発への積極投資を実施し、成果を掴みつつあるOPTiM Cloud IoT OSでデファクトスタンダードを獲得するための、足掛かりとなる1年とする。

具体的には、ここ数年取り組んできた、各業界・産業とITを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築する取り組みを推進していく。

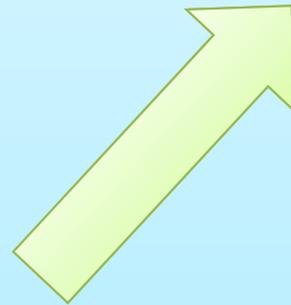


開発体制整備成果

2018年 期末

開発総工数：**384**人月

(正スタッフ、契約スタッフ、業務委託等を含む)



総開発工数2.2倍確保

AI・IoT・Robotics人材
10倍確保

2018年 期初

開発総工数：**174**人月

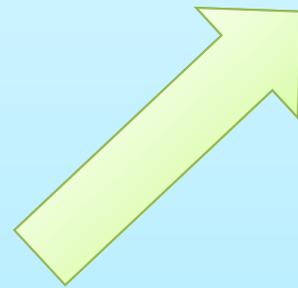


開発体制整備成果

2018年 期末

開発人員数：**411**人

(正スタッフ、契約スタッフ、業務委託等を含む)



AI・IoT・Robotics人材
179人増(77%増)

2018年 期初

開発人員数：232人



株式会社テレパシー・グローバル 株式取得（完全子会社化）

OPTiM：AI・IoTソフトウェアテクノロジーを
最大限引き出すグローバル・ロボティクスチーム買収

- Cloud IoT OSは日進月歩で成長を遂げており、農業・建設・医療等幅広い分野で、スマートグラス・ドローン・ホーク・クローラー等、多種多様なハードウェアと連携することで、サービスが急速に拡大を始めています。
- テレパシー・グローバルは、NASDAQ に上場するシリコンバレーの有力ベンチャーキャピタルであるFirsthand Technology Value Fund, Inc. 支援のもと、日米欧におけるスマートグラスやIoT センサ等、各種 IoT 関連ハードウェアの開発・導入並びにサービスの立ち上げを幅広く支援してきました。特に企画・開発・設計・調達・保守・運用までを統合的に行う、実用的な IoT サービスの経験・知見に定評があります。



研究開発成果

- **農業xIT**：ドローン・AIを用いた**世界初・ピンポイント農薬散布テクノロジー**による大豆の栽培に成功・販売開始
 - **スマート農業ソリューション**を発表
 - **スマート農業アライアンス**の設立（70生産者参画・50ha栽培開始）
 - **SMART AGRI**メディアを開設（<https://smartagri-jp.com/>）
- **建設xIT**：コマツ・オプティム・ドコモ・SAPによる合弁会社
建設・土木におけるオープンプラットフォーム**株式会社ランドログ**設立
約180社が参画検討中
- **医療xIT**：**医療機器製造業登録証**取得
 - AI遠隔医療サービス拡充
 - AI在宅医療サービス**Smart Home Medical Care** 提供開始
 - AI眼底レントゲン解析サービス佐賀大学病院・美川眼科と臨床開始
- **小売xIT**：無人店舗 **モノタロウAI Store**の開設



研究開発成果

- OPTiM Cloud IoT OSに対応したAI関連新14サービスを発表・提供開始

AI Physical Security Service

- ディープラーニングを活用した画像解析によるセキュリティサービス

AI Predictive Maintenance Service

- 機器故障等の事前検知を行うAI予知保全サービス

AI Voice Analytics Service

- 音声データのテキスト化や分析を行うAI音声解析サービス

AI Call Center Service

- 音声解析AIを活用したAIコールセンター支援サービス



研究開発成果

- OPTiM Cloud IoT OSに対応したAI関連新14サービスを発表・提供開始

Smart Retail Management

- AIを用いた空席検知などのマーケティングと防犯対策を実施する店舗管理支援サービス

Smart Field

- 現場で働く方々を統合的に支援・管理するサービス
Optimal Second Sightと連動し、現場の更なる生産性向上を実現



研究開発成果

- OPTiM Cloud IoT OSに対応したAI関連新14サービスを発表・提供開始
 - Agri Field Manager
 - 圃場情報管理サービス
 - Agri House Manager
 - ハウス情報管理サービス
 - OPTiM Hawk(新固定翼)
 - 固定翼ドローン
 - OPTiM Agri Drone(新型)
 - マルチコプタードローン
 - OPTiM Crawler
 - 陸上走行型ロボット
 - Agri Assistant
 - 農作業記録・GAP取得支援サービス
 - アグリブロックチェーン
 - ブロックチェーンを活用したトレーサビリティプラットフォーム
 - スマートやさい
 - OPTiMスマート農業で栽培された野菜

〇〇×IT戦略に対する投資継続

更なるAI・IoT・ロボットの技術獲得を推進する

AI・IoT・Robotics分野への積極投資を継続し、本格的な売上計上、及び、利益回収を以下年表に基づき実現していく。

研究開発投資推移イメージ





世界一、AIを実用化する企業になる



第4次産業革命に向け、「OPTiM Cloud IoT OS」で国内デファクトスタンダードを獲得し第4次産業革命を本格的にリードする企業を引き続き目指してまいります。

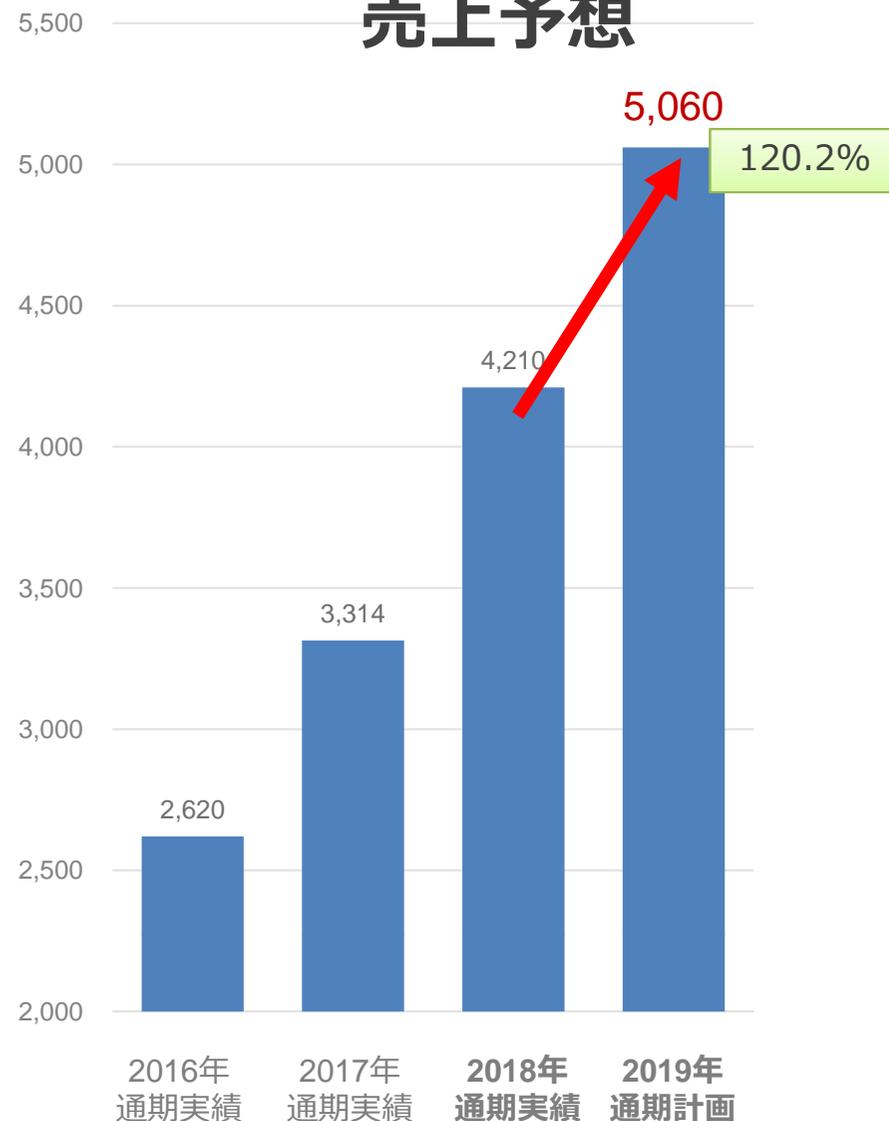
そのために IoT/AI/Robot分野で昨年度以上の積極的な事業展開、及び、集中投資を行い、必要な研究開発を進めてまいります。

Cloud IoT OSは、あらゆる人に直感的なユーザ体験
“IoT端末の制御・データ解析・AI・クラウドサービスとの連携”
を提供するプラットフォームです



前年比
(単位：百万円)

売上予想





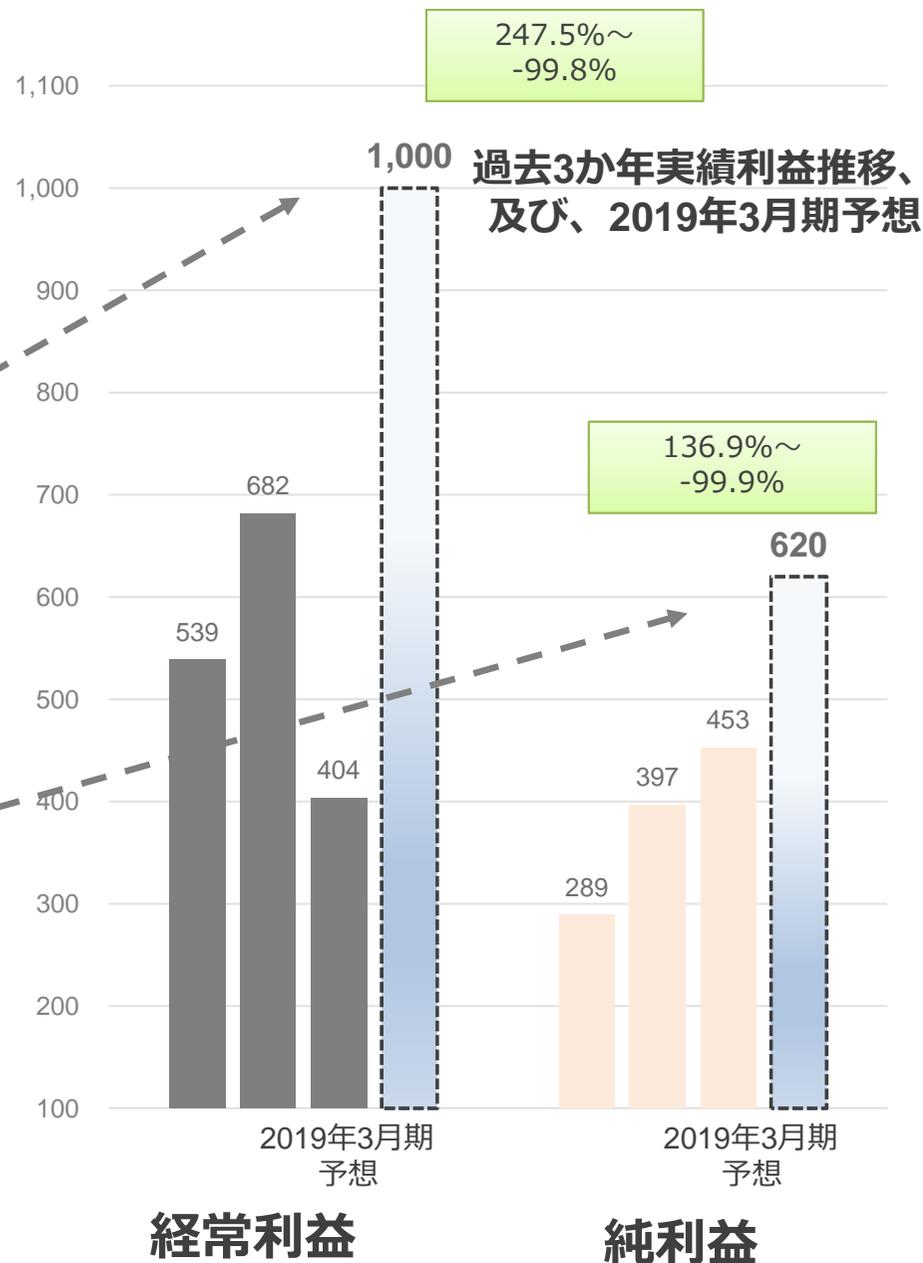
第4次産業革命の中心的企業になるべく
AI・IoT・Robot分野に積極的な投資を行う

そのため今期も前期に引き続き、
レンジ形式による経常利益・純利益
予想を採用します

2019年3月期
経常利益10億円~100万円
純利益6.2億円~62万円
の範囲で計画

利益がマイナスにならない範囲にお
いて、研究開発への積極投資を実施
進捗が分かり次第速やかに開示

前年比
(単位：百万円)





- 2019年3月期の業績は、創業来19期連続となる過去最高売上高を目指します。既存サービスの安定した成長による、売上50.6億円（前年比売上高120.2%）は達成可能な見通しです。
 - 当社が展開する市場は堅調に拡大を続けており、その市場のなかでの当社の位置づけも優位な状況であることは変わっておりません。来期においても例年通りの成長投資をかけることを前提とすると、**既存サービスにおける売上は、前期比で20%程度の成長率、営業利益・経常利益については、対売上比で20%程度は見積もることが出来る状況となっております。**
 - ただし、世界の大きな潮流は、AI、IoT、Robotを活用した「第4次産業革命」へと加速度をあげて移行しております。時代の大きな転換点を鑑みるに、「第4次産業革命」において中心的な役割を果たす企業となるためには、より一層の研究開発投資が必要であると判断しました。**2019年3月期については、2018年3月期同様、最大、経常利益がマイナスにならない範囲において、研究開発への積極投資を実施し、成果を掴みつつあるOPTiM Cloud IoT OSでデファクトスタンダードを獲得するための、更に足掛かりとなる1年としていきたいと考えております。具体的には、ここ数年取り組んでまいりました、各業界・産業とITを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築する取り組みを引き続き推進してまいります。**
- 売上、利益ともに新規サービスの受注により拡大の可能性を残しております。なお、計画値と乖離が生じた場合には、速やかに開示します。

OPTiM

www.optim.co.jp